

## 第3節

## 先生と友人との関係

## 1 先生との交流

約半数の大学生は、大学の先生と交流しており、男子学生よりも女子学生のほうが積極的に交流をしている。また、学年が上がるほど交流の頻度も増える傾向があり、ゼミに所属する3年生、卒論などの指導が始まる4年生になると頻度が高まる。先生と交流がある学生は、そうでない学生よりも大学に満足しており、先生との交流は大学生活を満足させる重要な要因となっている。

#### 男子よりも女子のほうが大学の先生との交流頻度が多い

現代の大学生たちは大学生活の中で、大学の先生とどのくらいの交流をしているのだろうか。大学の先生との交流の頻度を全体と性別でみた結果を図2-3-1に示した。

まず、全体からみてみると、大学の先生との交流が「ある」（「よくある」＋「まあある」、以下同）と回答した割合は51.4%となっており、約半数の学生は大学の先生との交流の機会を持っている。性別でみてみると、大学の先生との交流が「ある」のは、男子で47.3%、女子で56.6%となっており、女子のほうが男子よりも9.3ポイント多くなっている。女子学生のほうが大学の先生との交流の機会を多く持っていることがうかがわれる。

#### 上級学年になるほど先生との交流が密に

次に学年別にみてみると、大学の先生との交流が「ある」との回答割合は、1年生が38.4%、2年生が43.2%、3年生が59.3%、

4年生が64.3%となっており、学年が上がるにつれて、先生との交流の頻度が増えている（図2-3-2）。特に、2年生から3年生の間では16.1ポイントも交流の頻度の割合が上昇している。これは、多くの大学において、3年生から専門性の高い学問内容を扱う少人数制のゼミナールに所属することから、1、2年生の頃よりも、より密接に大学の先生と交流する頻度が増えるものと思われる。さらに4年生になると、卒業論文の指導など、個人的な交流も増えることからか、「よくある」との回答割合も一段と上昇している（3年生：10.1%→4年生：14.6%）。

また、学部系統別にみてみると、「農水産」（62.9%）、「教育」（62.0%）、「医・薬・保健」（55.8%）が先生との交流が「ある」との回答割合が高くなっており、実験や低年次からのゼミ活動のある理系学部の交流頻度が高い傾向がみられる（図2-3-3）。一方、「理工」（44.9%）、「社会科学」（45.8%）は低い割合となっており、理系学部でも工学系の学部については、先生との交流が少ない傾向がみられている。

大学の先生と交流のある学生のほうが  
大学に満足

それでは、このような先生との交流は、大学生たちの学生生活にどのような影響を及ぼしているのだろうか。ここでは「総合的な大学への満足度」と大学の先生との交流の頻度との関連について確認した(図2-3-4)。

結果をみてみると、大学の先生との交流が

「ある」と回答している学生の72.2%が、大学に「満足」であると回答している。一方、先生との交流が「ない」(「あまりない」+「ぜんぜんない」)と回答している学生の大学に満足との回答は55.3%となっており、その差は16.9ポイントにもなっている。大学の先生との交流は、大学生の大学生活を満足させる重要なファクターであるといえることができる。



あなたは大学の先生と話をするなどの交流がどのくらいありますか。

図2-3-1 大学の先生との交流の頻度(全体・性別)

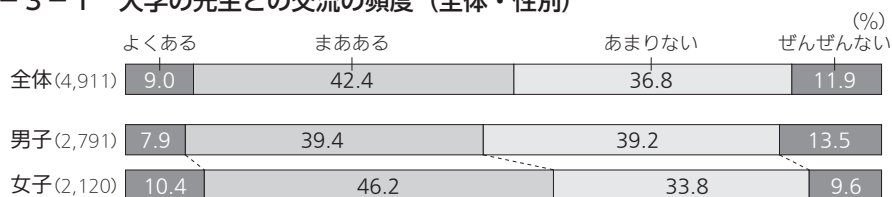


図2-3-2 大学の先生との交流の頻度(学年別)

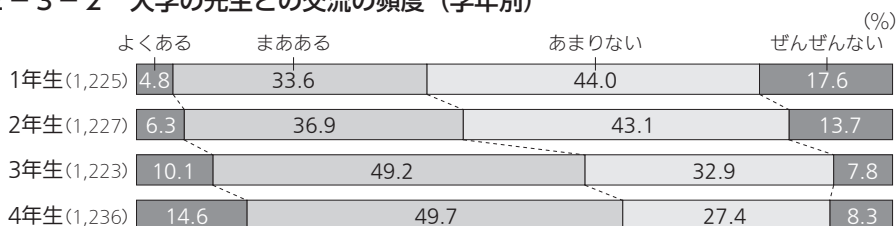


図2-3-3 大学の先生との交流の頻度(学部系統別)

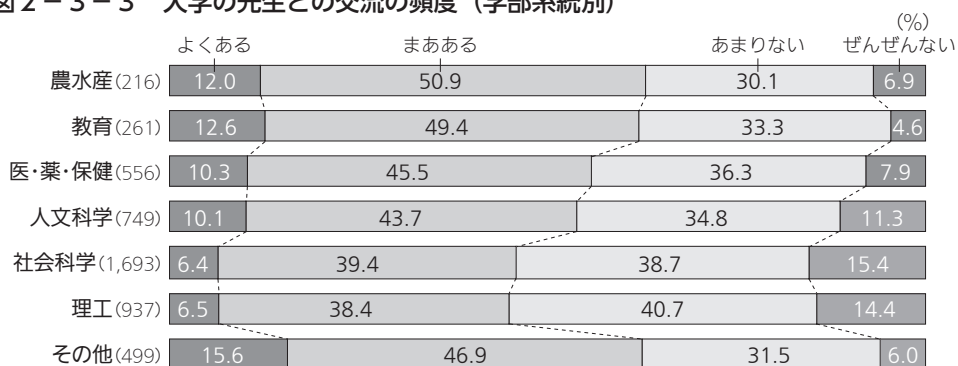


図2-3-4 大学の先生との交流の頻度×総合的な大学満足度(全体)



注1)「交流あり」は先生との交流が「よくある」+「まあある」の回答者、「交流なし」は「あまりない」+「ぜんぜんない」の回答者を表す。  
注2) 総合的な大学満足度は、「大学生生活を総合的に判断して」に対し、「とても満足している」+「まあ満足している」の回答を「満足」、「あまり満足していない」+「全く満足していない」の回答を「不満」としている。

## 2 先生との交流の場

大学の先生との交流の場面は、「授業の前後」や「ゼミ・演習授業」が圧倒的に多くなっており、授業やゼミが学生と先生との主な交流の場となっている。また、男子学生よりも女子学生のほうが、「メール」や「授業の前後」等、先生に対して自ら接触する機会を多く持っている。学年別では、1、2年生は「授業の前後」が多いが、3、4年生では「ゼミ・演習授業」が多くなる。4年生では個人的な接触が増加する。

### 授業やゼミが主な交流の場

大学の先生との交流は、大学生活のどのような場面で行われているのだろうか。全体の結果を図2-3-5に示した。全体では「ゼミ・演習授業」が66.6%、「授業の前後」が61.1%、「打ち上げや合宿」が25.1%となっており、授業やゼミといった時間での交流が他の項目よりも突出して多くなっている。一方で、「オフィスアワー」(15.9%)、「個別指導」(15.3%)といった個人的な交流の機会は少ない傾向がみられている。大学の先生と交流するのは授業のような与えられた場が主であり、先生のところから自ら出向いたり、メールをしたりといった学生自身の行動による交流の機会を持つことは少ないようである。

### 女子学生のほうが積極的に先生と交流

こうした先生との交流の場面について性別でみると、「メール」「授業の前後」といった項目において、男子よりも女子のほうが、先生との交流が「ある」と回答している割合が5ポイント程度高くなっている(図2-3-6)。いずれの項目も、学生のほうから先生のもとに行ったり話しかけたりといった、何らかのアクションを伴うものである。女子学生は男子学生よりも、大学の先生に対して積極的に交流する機会を持っているものと思われる。

### 学年が上がるにつれて先生との距離が縮まる?

学年別でみると、1、2年生では「授業の前後」が7割以上と高くなっており、続いて「ゼミ・演習授業」となっている。3、4年生になると「ゼミ・演習授業」が7~8割となり、3年生からのゼミナールが先生との交流の絶好の機会となっているようである(表2-3-1)。また、「打ち上げや合宿」も2年生では16.4%だったものが3年生では28.2%と11.8ポイント増加しており、ゼミでの授業そのものに加えて、合宿や打ち上げといった機会が増えるものと思われる。

4年生においては「個別指導」や「メール」での交流が1~3年生よりも多い傾向がみられている。これは卒論の指導や就職のことで、個人的に先生と連絡を取ったり面会したりする機会が増えることを示しているものと考えられる。

学部系統別にみると、「授業の前後」に先生と交流しているのは「人文科学」と「医・薬・保健」が多くなっている(表2-3-2)。「ゼミ・演習授業」での交流は「社会科学」が他の学部系統よりも目立って多くなっている。また「オフィスアワー」を利用している割合が高いのは「人文科学」であり、「個別指導」は「教育」が多く利用しているという結果となっている。



大学の先生との交流は以下のどの場面でありますか。あてはまるものをすべてお選びください。

図2-3-5 大学の先生との交流の場面（全体）

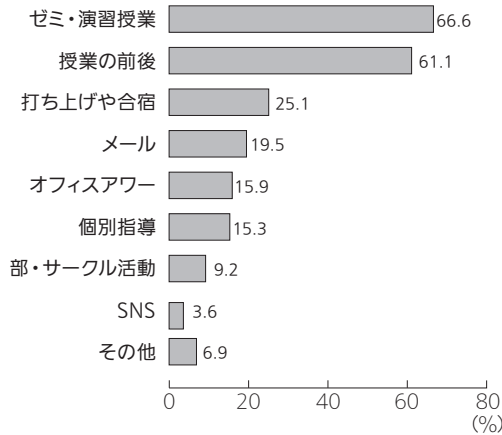
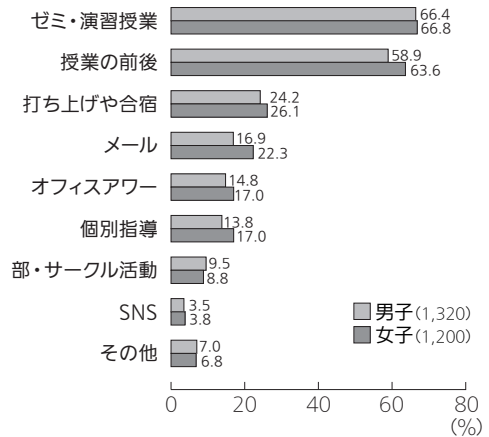


図2-3-6 大学の先生との交流の場面（性別）



注1) 複数回答。

注2) サンプル数は「大学の先生と交流がある（「よくある」＋「まあある」）」と回答した2,520名。

表2-3-1 大学の先生との交流の場面（学年別）

(%)

	全体 (2,520)	1年生 (470)	2年生 (530)	3年生 (726)	4年生 (794)
授業の前後	61.1	71.1	74.5	58.7	48.5
ゼミ・演習授業	66.6	41.9	52.5	75.2	82.7
打ち上げや合宿	25.1	11.3	16.4	28.2	36.3
メール	19.5	17.2	19.4	17.5	22.7
オフィスアワー	15.9	16.8	14.0	15.8	16.6
個別指導	15.3	10.9	12.5	14.7	20.4
部・サークル活動	9.2	9.6	12.1	9.9	6.3
SNS	3.6	2.8	4.3	4.4	2.9
その他	6.9	7.2	7.2	6.3	7.2

注1) 対象は、大学の先生との交流が「よくある」「まあある」と回答した2,520名。

注2) 複数回答。注3) ○は全体値よりも5ポイント以上高いものを示す。●は全体値よりも10ポイント以上高いものを示す。

表2-3-2 大学の先生との交流の場面（学部系統別）

(%)

	全体 (2,520)	人文科学 (403)	社会科学 (776)	理工 (421)	農水産 (136)	医・薬・保健 (310)	教育 (162)	その他 (312)
授業の前後	61.1	73.4	52.3	58.7	54.4	71.0	62.3	62.8
ゼミ・演習授業	66.6	69.2	80.5	57.2	63.2	47.4	72.2	58.7
打ち上げや合宿	25.1	26.6	29.0	18.8	34.6	20.3	24.1	23.4
メール	19.5	21.6	20.6	16.4	19.1	14.5	24.7	20.5
オフィスアワー	15.9	19.9	13.7	15.7	17.6	17.4	16.7	13.8
個別指導	15.3	14.1	9.5	18.1	19.1	17.1	21.0	21.2
部・サークル活動	9.2	8.2	8.1	7.6	7.4	12.9	10.5	11.5
SNS	3.6	4.2	5.0	1.9	1.5	0.6	4.3	5.1
その他	6.9	4.5	4.5	8.3	12.5	9.4	4.3	10.9

注1) 対象は、大学の先生との交流が「よくある」「まあある」と回答した2,520名。

注2) 複数回答。注3) ○は全体値よりも5ポイント以上高いものを示す。●は全体値よりも10ポイント以上高いものを示す。

### 3 友だちの数

大学生の友人関係は、「話をしたり一緒に遊んだりする友だち」は多いが「悩み事を相談できる友だち」や「学習や広く社会の課題などについて議論をする友だち」は少ない傾向がみられる。特に、大学内に「悩み事を相談できる友だち」が「いない」と回答している学生は全体で2割ほど存在し、浅く広い人間関係を構築している様子がうかがわれる。特に男子学生の4分の1は大学内に悩みを相談する友人が「いない」という結果となっている。

.....  
**気軽につき合える友人は多いが、  
深い話をするような友人は少ない？**  
.....

現代の大学生たちはどのような友人関係を築いているのだろうか。ここでは、大学内と大学外における友人の数についてたずねた。

まず、全体でみると「話をしたり一緒に遊んだりする友だち」は、大学内では7割、大学外では6割が4人以上と回答している(図2-3-7)。

「悩み事を相談できる友だち」は、大学内、外とも「2~3人」と回答する割合が高くなっている。悩みを相談できる友だちが「いない」と回答しているものが2割ほどいることにも注目できる。楽しく遊んだり話したりする友人関係は築くことができても、何か悩みが発生したときに相談できる友だちは少ないようである。

「学習や広く社会の課題などについて議論をする友だち」については、大学内「2~3人」、大学外は「いない」との回答が最も多い。4人以上と回答している割合は、大学内では41.4%、大学外では27.9%となっており、大学内のほうが議論できる友だちが多い傾向がみられている。また、大学内に議論できる友だちが「いない」と回答しているものは22.3%、大学外では34.4%となっており、大学外のほうが、議論できる友人が「いない」割合が高くなっている。決して多いとは言え

ないが、大学内のほうが大学外よりも議論できる友人が多くなっており、大学が学習や社会のことなどを議論する場として機能している様子もうかがえる。

.....  
**男子学生の4分の1は大学内に  
「悩み事を相談できる友だち」がいない**  
.....

性別でみると、全体的に女子のほうが男子よりも、大学内、外ともに、友だちが多い傾向がある(図2-3-8)。とりわけ「悩み事を相談できる友だち」については、「いない」の回答割合が女子では大学内16.3%、大学外13.4%であったのに対し、男子は大学内25.3%、大学外25.1%となっており、男子の4分の1は「悩み事を相談できる友だち」が「いない」という結果となっている。

大学内に悩みを相談できる友人がいない学生は、大学外にそのような友人がいるのだろうか。図2-3-9に大学内に「悩み事を相談できる友だち」が「いない」と回答した学生を抽出し、大学外の「悩み事を相談できる友だち」の数の分布を示した。その結果、大学内に「いない」と回答した学生のうち、男子で56.3%、女子で39.0%が大学外にも「いない」という結果となった。大学内にも大学外にも相談事ができる友人が全くいない学生も少なくない現状がうかがえる。



次のようなことをする友だち（大学内・外）は全部で何人くらいいますか。

図2-3-7 大学内、大学外における友だちの数（全体）

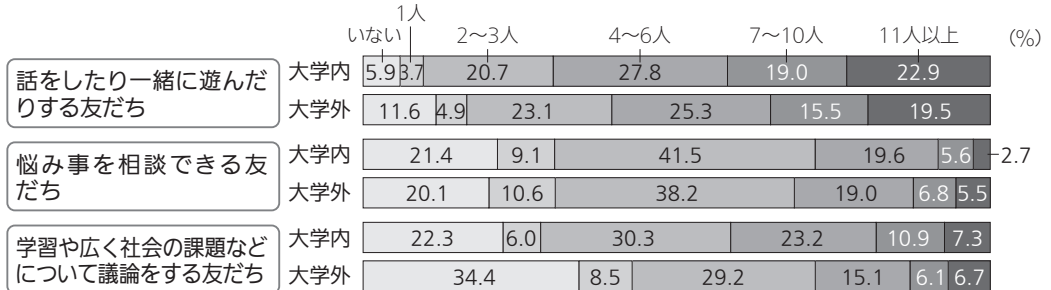


図2-3-8 大学内、大学外における友だちの数（性別）

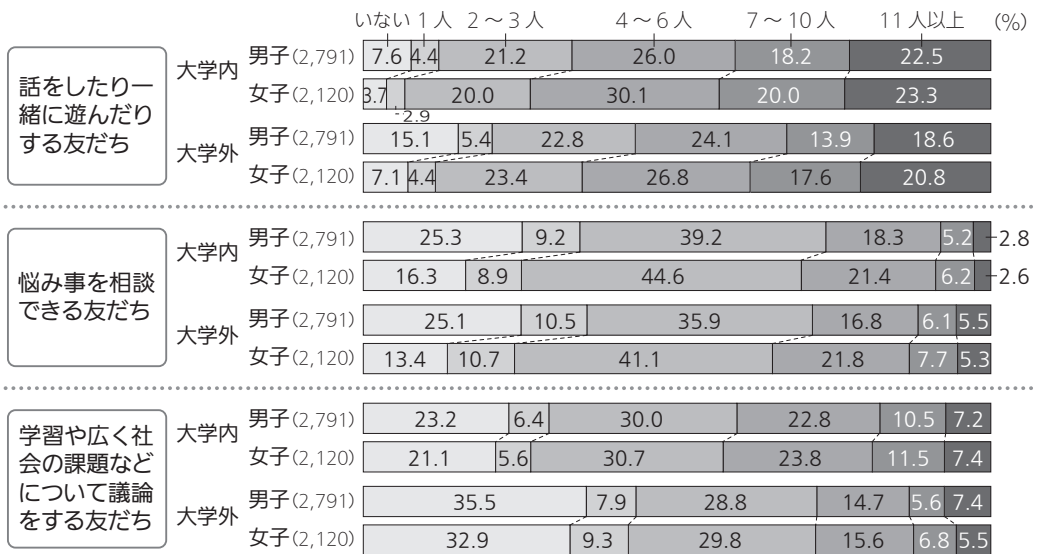
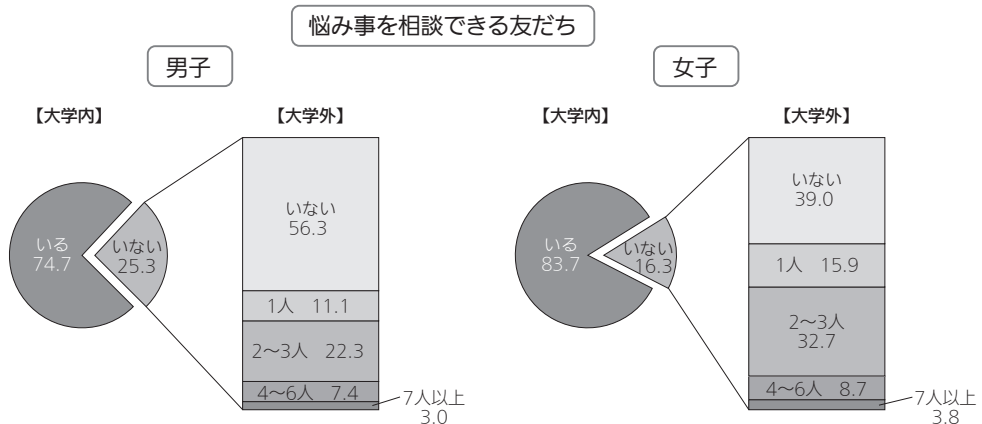


図2-3-9 大学内に悩み事を相談できる友だちがいない学生の大学外の友だちの数（性別）



注1) 「大学外」の友人の数の割合は、「大学内」の友人が「いない」と回答した人を母数としている。

注2) 「いる」は「1人」～「11人以上」の合計の割合を表す。

注3) 「7人以上」は「7～10人」「11～15人」「16人以上」の合計の割合を表す。



## 4 友だちと知り合ったきっかけ

大学生が大学での友だちと知り合ったきっかけは、1年生の時の授業や入学時のイベントなどが多くなっている。この入学時に知り合った友人関係は4年生まで続いており、初年次における授業やイベントは大学における友人との出会いの場としての機能も果たしているものと思われる。

### 1年生の時の出会いがきっかけとなるケースが多い

大学生たちは、大学の友人とどのようなきっかけで知り合ったのだろうか。まず全体の結果をみると、「1年生の時の授業」が62.3%と最も多くなっている。次いで「部・サークル」(45.1%)、「入学後のオリエンテーション」(38.8%)が続いており、授業やオリエンテーションなど、大学の中の友だちとは1年生の時の出会いがきっかけで仲良くなるケースが多いようである(図2-3-10)。初年次における授業、イベントは大学における友人との出会いの場としての機能も果たしているものと思われる。

### 女子は入学前後のイベントで、男子は部・サークルで友人ができる

性別でみると、男子学生より女子学生の回答割合が多いのは、「入学後のオリエンテーション」「入学式」「入学前のイベントなど」となっている(図2-3-10)。一方、男子学生の回答割合が多いのは、「部・サークル」「同じ高校だった」「ゼミ」となっており、知らない者同士が集う入学前後のイベントの場で友だちをつくる積極的な女子学生と、入学前の人間関係の継続や所属した集団の中から友だちをつくる慎重な男子学生といった姿が浮かび上がってくる。

### 1年生の時の出会いは4年生まで続く

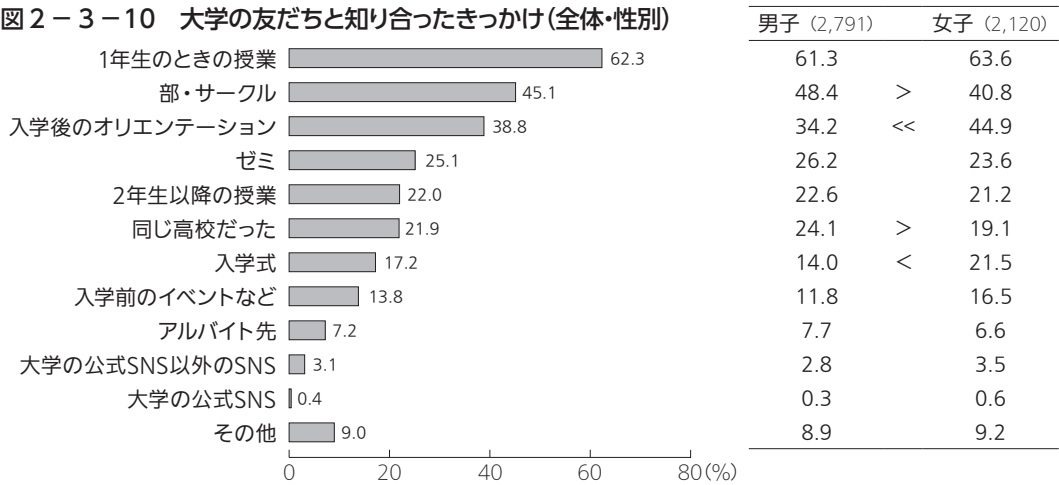
次に学年別でみると、1年生では「入学後のオリエンテーション」「入学式」「入学前のイベントなど」「同じ高校だった」の回答割合が他の学年よりも多くなっており、入学時点で築いた友人関係が中心のようである(表2-3-3)。入学前後の出会いの回答割合は学年を追うごとにわずかながら減少していく傾向にあるが、4年生の57.0%が「1年生のときの授業」で出会った人と友だち関係を継続しており、1年生の時の出会いは、4年生になっても継続していることがうかがわれる。また、3、4年生で「ゼミ」で知り合った割合が高くなっており、ゼミへの参加は、入学前後の出会いや部・サークルでの出会いといった1、2年生の時の友人関係以外の新たな出会いの場となっているものと思われる。

学部系統別でみると、「入学式」や「入学後のオリエンテーション」といった入学時のイベントで友だちと知り合った割合が高いのは「医・薬・保健」である(表2-3-4)。「ゼミ」で知り合った割合が高いのは「社会科学」(38.9%)となっている。一方、「ゼミ」で知り合ったという割合が際立って低いのは「医・薬・保健」(8.5%)、「理工」(13.1%)、「農水産」(17.6%)といった理系学部であり、これらの学部の学生は、入学時のイベントや授業での出会いが大学での友人関係の中心となっているようである。



大学で今仲良くしている友だちとは、何をきっかけに知り合いましたか。あてはまるものをすべてお選びください。

図2-3-10 大学の友だちと知り合ったきっかけ(全体・性別)



注1) 複数回答。 注2) <>は5ポイント以上の差、<<>>は10ポイント以上の差を示す。

表2-3-3 大学の友だちと知り合ったきっかけ(学年別) (%)

	全体 (4,911)	1年生 (1,225)	2年生 (1,227)	3年生 (1,223)	4年生 (1,236)
同じ高校だった	21.9	24.9	21.3	21.2	20.4
入学前のイベントなど	13.8	18.0	13.0	14.6	9.9
入学式	17.2	20.7	16.1	15.5	16.6
入学後のオリエンテーション	38.8	45.8	35.8	36.5	37.1
1年生のときの授業	62.3	63.7	68.5	60.1	57.0
2年生以降の授業	22.0	0.4	25.0	32.6	30.0
ゼミ	25.1	13.4	15.2	29.5	42.2
部・サークル	45.1	49.4	44.4	42.1	44.7
大学の公式SNS	0.4	0.7	0.2	0.5	0.4
大学の公式SNS以外のSNS	3.1	4.2	3.5	2.5	2.1
アルバイト先	7.2	4.7	6.4	8.3	9.4
その他	9.0	8.7	8.2	9.6	9.5

注1) 複数回答。 注2) ○は全体値よりも5ポイント以上高いものを示す。●は全体値よりも10ポイント以上高いものを示す。

表2-3-4 大学の友だちと知り合ったきっかけ(学部系統別) (%)

	全体 (4,911)	人文科学 (749)	社会科学 (1,693)	理工 (937)	農水産 (216)	医・薬・保健 (556)	教育 (261)	その他 (499)
同じ高校だった	21.9	20.6	26.1	21.1	18.1	16.2	21.8	19.4
入学前のイベントなど	13.8	12.3	13.7	11.5	19.4	14.0	20.3	14.8
入学式	17.2	16.0	13.6	13.1	18.1	29.3	20.3	23.4
入学後のオリエンテーション	38.8	39.3	32.9	36.7	45.4	48.2	48.7	43.7
1年生のときの授業	62.3	64.6	60.8	63.4	63.4	61.5	65.9	60.7
2年生以降の授業	22.0	24.8	17.0	25.4	24.5	22.8	26.8	24.0
ゼミ	25.1	25.9	38.9	13.1	17.6	8.5	27.2	20.0
部・サークル	45.1	40.1	50.5	39.6	57.4	43.9	46.7	40.3
大学の公式SNS	0.4	0.4	0.5	0.2	0.5	0.5	0.0	0.8
大学の公式SNS以外のSNS	3.1	2.9	3.0	2.9	2.3	2.2	5.4	4.0
アルバイト先	7.2	6.5	8.5	7.0	10.2	4.1	8.4	5.6
その他	9.0	9.7	8.3	10.2	7.9	7.4	6.9	11.6

注1) 複数回答。 注2) ○は全体値よりも5ポイント以上高いものを示す。●は全体値よりも10ポイント以上高いものを示す。



## 5 対人意識

大学生の友人関係に対する意識では「1人で行動していても気にならない」「違う意見を持った人とも仲良くできる」といった自立した友人関係を築いている様子が見えてくる。また、積極的に友人とのコミュニケーションをはかる女子に対し、友人に話を合わせ、徒党を組みたがり、リアルな友人関係に疲れも感じている男子学生の姿も浮かび上がった。

### 「認め合い、気遣い合う」友人関係

大学生の友人関係に対する意識はどうなっているのだろうか。まず、全体で一番多かったのは「1人で行動していても気にならない」で83.4%が「そう」（「とてもそう」＋「まあそう」、以下同）と回答している（図2-3-11）。次いで「違う意見を持った人とも仲良くできる」（80.2%）、「友だちを傷つけないように気を遣っている」（78.6%）、「世代の違う人と話するのは苦にならない」（77.9%）となっている。

一方で、「グループの仲間同士と一緒にいたい」「仲間はずれにされないように話を合わせる」という意識も併せ持っている。大学生たちは、友人に気を遣い、異なる価値観や世代の違う人とも仲良くすることができる。そして、仲間と一緒にいたいとは思っているが、単独行動をすることにも抵抗を感じないといった、相手との距離感も大事にし、認め合い、気遣い合う友人関係を構築しているようである。

### 「便所飯」予備群は37.1%

近年の大学生の友人関係に関してよく言われているのが「ランチメイト症候群」または「便所飯」と呼ばれる現象である。これは大学等の人目の多い場所で一人で食事をしている姿を誰かに見られたくなくて、隠れて食べるといったものである。今回の調査では、「一人で食事をしているところを人に見られたくない」と思うかを聞いた結果、「そう」と回答したのは全体の37.1%であった。これを多いとみるか少ないとみるかは難しいところだが、世間で言われ

ているほど、大学生の間で「便所飯」現象が蔓延しているわけではないようである。

### 「そつのないコミュニケーションをする女子、友人に話を合わせ徒党を組みたがる男子」

性別でみると、女子は「友だちを傷つけないように気を遣っている」「違う意見を持った人と仲良くできる」「世代の違う人と話するのは苦にならない」「異性とも気楽に話せる」といった項目で、「そう」と回答する割合が男子よりも高くなっている（図2-3-12）。一方、男子は「仲間はずれにされないように話を合わせる」「SNSの友人のほうが本音を話しやすい」「友だちに忠告できる」「グループの仲間同士と一緒にいたい」が女子よりも多くなっている。適正な距離を保った友人との付き合いをする女子に対し、友人に話を合わせ、徒党を組みたがり、その一方でリアルな友人関係に疲れしている男子といった姿が垣間みえる。

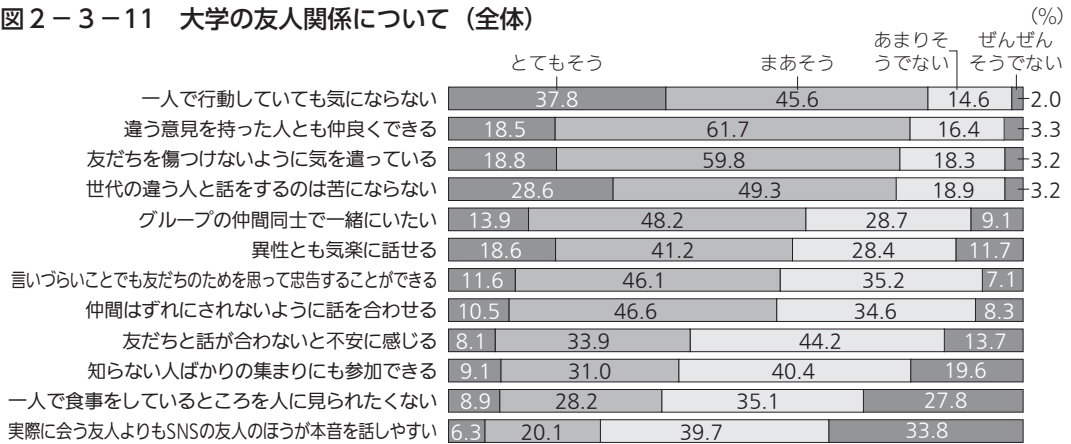
### 学年が上がるほど人間関係が円滑になる

学年別でみると、「異性とも気楽に話せる」「1人で行動していても気にならない」に「そう」と回答する割合は、学年が上がるほど高くなっている。一方で、「友だちと話が合わない」と不安を感じる」「SNSの友人のほうが本音を話しやすい」「一人で食事をしているところを見られたくない」は減少している。学年が上がるほど、人間関係が円滑となっているようである（図2-3-13）。



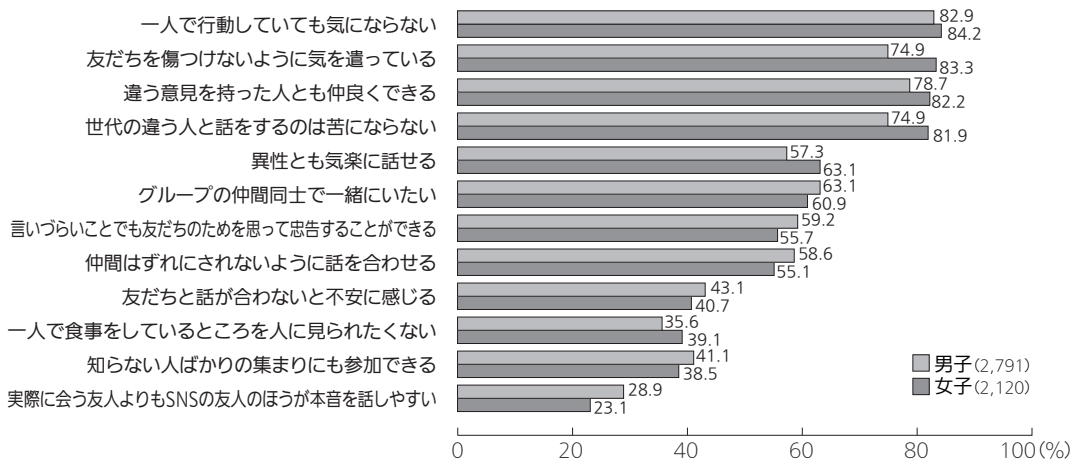
友だちとの関係について、次のようなことはどのくらいありますか。

図2-3-11 大学の友人関係について (全体)



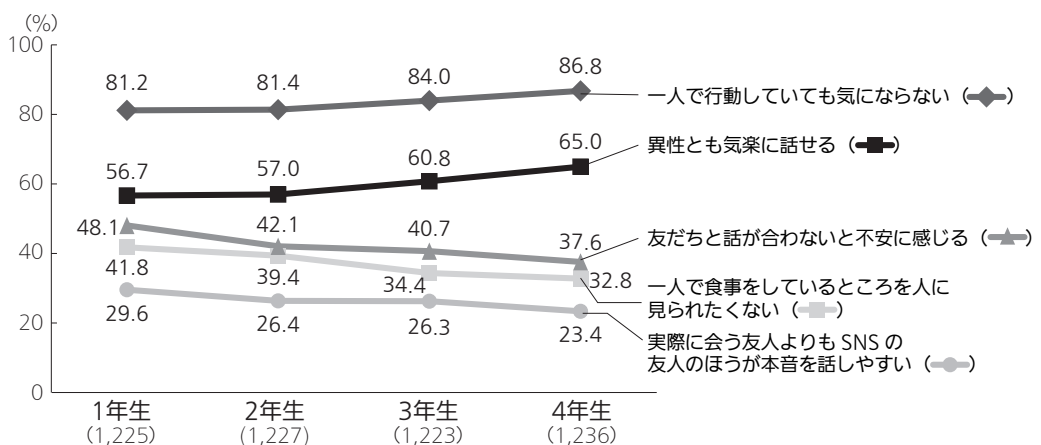
注) サンプル数は4,911名。

図2-3-12 大学の友人関係について (性別)



注) 「とてもそう」 + 「まあそう」の%。

図2-3-13 大学の友人関係について (学年別)



注1) 「とてもそう」 + 「まあそう」の%。 注2) 図内の項目は差のある項目を抜粋。